

ナメコ栽培技術の再点検

— 価格低迷期への対応 —

1 はじめに

長野県のナメコ生産は、昭和57年以来全国第1位の生産量を維持しています。それは、他県に先駆けて空調栽培の導入を行い、空調用品種、800cc広口ビン、新栄養材等による栽培体系をいち早く確立してきたことによります。しかし、平成6年以來の大幅な単価の下落により、ナメコ栽培者は厳しい経営状況に直面しています。

そこで、ナメコ生産状況を整理し、経営改善に必要な技術的ポイントについて以下に述べます。

2 ナメコ生産状況

図-1に示したとおり昭和59年に全国生産量が2万トン近くに達してから、一時は1kg当り900円程度であった販売単価も700円前後になり、ブナシメジ等が良い単価を得ている時もナメコ生産は価格低迷期をむかえていました。

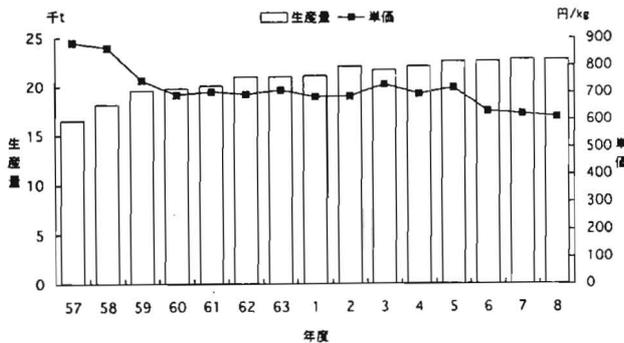


図-1 ナメコ全国生産量と単価 (林野庁)

そのなかでも効率的な生産体制を確立した栽培者は、規模を拡大して生産を安定させ経営を維持しました。一方では小規模栽培者を中心に栽培をやめる人も増え、大規模栽培者が増加しています(図-2)。

昭和59年～平成5年の10年間は、価格は低迷しているものの年平均単価は安定しており、全国及び長野県も安定生産期でした。

ところが、平成6年には、キノコ全体の価格の低迷により1kg当り600円程度に大幅に下落しま

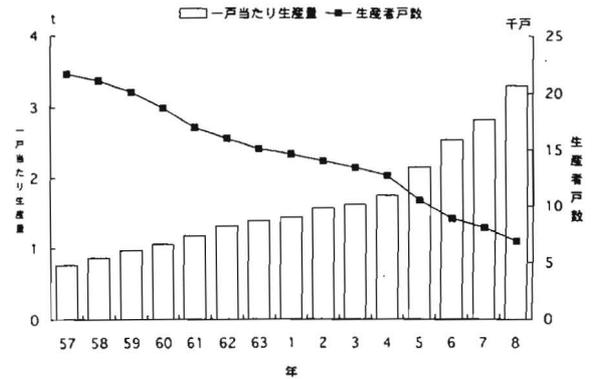


図-2 全国ナメコ生産者戸数と一戸当たり生産量の推移 (林野庁)

した。平成7、8年も同様の傾向で、他品目よりも早くから価格の低迷に直面してきたナメコ栽培者にとっても、わずかな技術的失敗も経営に大きな打撃となる厳しい状況です。

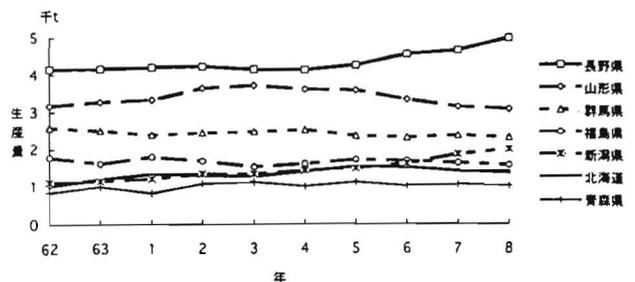


図-3 ナメコ主要栽培県の生産量の推移 (林野庁)

図-3に主要な他県の生産の推移を示しましたが、いずれの県も同様の状況です。平成8年には、他県の有名産地でも厳しい状況に抗しきれず、生産をやめた人々も数多くでています。そのなかでも長野県は、わずかですが生産量を増やしています。

3 種菌・品種に関する注意事項

単価の低迷するなかで、経営を維持するためには、十分な単位当り収量を上げることが必要です。それには、品種の選択や種菌の取り扱い方法が大きく影響します。

空調栽培用の極早生品種がほとんどの栽培者で使用されていますが、これらは時々発生不良現象

を引き起こしています。その原因が品種の遺伝的変異によるのか生理的な原因によるのか特定するのは、現在のところ技術的に困難ですが、種菌の性能が大きな比重を占めていることは確かです。

種菌メーカー等からだされている極早生品種の多くは、基本的な性能に大きな差はなく実用的なものです。しかし、1ピン当りの収量10gの増減が経営内容を左右しかねない現在の状況では、個々の品種にあった培地組成を十分に検討して使用する必要があります。一般的特性は共通していても、栽培環境、培地材料等個々の栽培者で異なる点も多く、導入に際しては、小規模でも試験栽培を行い、各自の施設や栽培環境における適性を十分に見極める必要があります。

他の栽培者が良い結果を得たからと安易に同じ品種を導入しても、必ずしも同様の結果は得られません。大量に導入して、うまくいかなければ、現在の状況では、それだけで経営の危機を招くおそれがあります。

また、使用品種も一つの品種のみでなく、危険分散のために数品種比較検討しながら使うことが重要です。

種菌は、当然ながら種菌センターやメーカーの由来の明らかなものを使用し、種菌費の節約のために栽培者レベルでの安易な拡大培養種菌の使用は、厳に慎むべきです。

図-4に示したように、種菌の熟度や培地組成により収量は大きく影響を受けます。

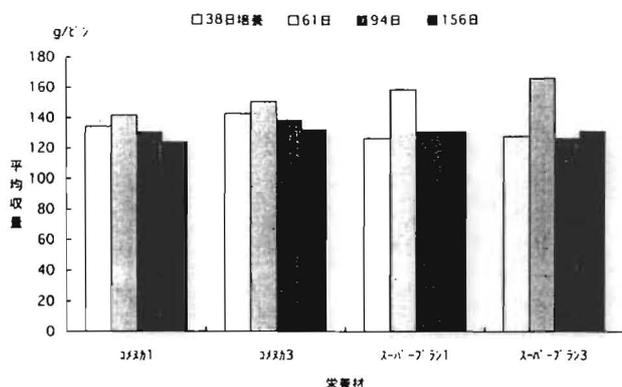


図-4 ナメコ種菌培養方法と収量 (KN231)

収量を最大にする種菌の培養日数は50日～60日

程度で、未熟なものや過熟なものを使用すると収量を落とします。これらの点からも十分に吟味された種菌センター種菌等を使うことが収量を増加させるためにも望ましいと言えます。

4 栽培技術のポイント

収量を最大にするためにチェックしなければならない事項の概要は、表-1のとおりです。

表-1 単位当たり収量増加のためのチェック事項

項目	細目
培地基材	<ul style="list-style-type: none"> オガコ樹種、粒度のチェック チップダスト、コーンコブなど調整材料の評価
栄養添加材	<ul style="list-style-type: none"> 培養促進、収量増に結び付く材料のチェック
種菌	<ul style="list-style-type: none"> 空調栽培用品種の比較使用 生産性の高い使用適期のもの
培養条件	<ul style="list-style-type: none"> 培地組成と種菌に合致した培養条件の吟味 培養温度は20 ± 2℃が適す
発生管理	<ul style="list-style-type: none"> 原基形成、生育適温のチェック 収穫中の害菌汚染の低減

培地基材及び栄養材から種菌、培養条件、発生条件まで一つ一つを十分吟味した総合結果として収量があります。一、二の事項を変えただけで簡単に収量を増加できるものではありません。

5 おわりに

栽培者個々の経営において、自らの技術体系を確立しておくことが、様々な状況に対応するための基盤となります。これがしっかり確立されていないと新しくだされる栄養材や新品種への対応を誤ったり、安易な導入による失敗につながります。

長野県のナメコ栽培技術の水準は高くなりましたが、経営状況を悪くする栽培者には、技術を吟味する目が甘い例も見受けられます。

技術を各方面から基本から洗い直し、厳しい状況に対応できる足腰の強い栽培技術を確立することが経営改善の最大の対策と考えます。

(特産部 増野)